



「ポジ育」とは…

一人一人の子育てを今より少しでも楽しく、前向きに取り組めるよう、ポジティブに育児に関わることを願って付けた名前です。

ポジ育通信⑧

R6.7.16 家庭教育学級 副会長:藤原/教頭:藤原

親同士のつながり⇒あたたかい子育てへ

保護者の方のご協力のもと行ったアンケート調査(4月)の結果から、子どもにとって重要な事実が明らかになりました！それは、様々な教育問題を解決するためには、保護者の子どもへのあたたかい関わりが大きく影響していること。更に親の受容的な態度は「コミュニティの一員である」という感覚を高めることで向上する、ということです。簡単に言うと、不登校や無気力、暴力行為などの問題行動の予防として、保護者自身が意識的に共同体感覚の3つの感覚を今よりも少しでも高めるとよい、ということです。

- ◆貢献感：私は誰かの役にたっている！「ありがとう」と言ってもらえている！
- ◆所属感：私は、ここにもいいんだ！この仲間の中にもいいんだ！
- ◆自己受容：私は、いいところも悪いところも含めて今のままを受け止めよう！

家族の中でこうした感覚に近いものを感じている方もいることでしょう。しかし、親族よりも非親族(家族以外の人)との関係の中での共同体感覚を高める方が、より子供に対して受容的な関わりができるようになる、ということがデータから明らかになりました。

では、共同体感覚をお手軽に高めるにはどうしたらよいのでしょうか。心理学の本を参考に次のようなことの果が高いと言われています。(下米田 Version)

【ボランティアへの参加】
「よなだっ子ボランティア」に参加してみる！
子どもを支援するという一つの目標に対する共同体として貢献感が味わえる場となって

【家庭教育学級】
【ポジ育サロンへの参加】
1つのテーマを共通の話題として悩みや自分の考えを話す中で、所属感・自己受容ができる場となっている。



学校では、子ども健やかな成長の為に、保護者の皆様が集まり、お話ができる機会を工夫し、親さん同士のつながりづくりを進めています。ボランティアでは、3年白山登山支援、5年家庭科支援、1年計算カード検定支援、1・2年大掃除支援など、学習支援ボランティアを通じた小さなコミュニティの中で、知り合いや顔見知りが増え、実際にlineの交換をされている方もいらっしゃいました。家庭教育学級(ポジ育サロン)でも同様、子育てに関する情報交換の場として参加者からは「たくさん話ができ安心した！」など、感想をいただいております。「親同士のつながり」⇒「安心感」⇒「親の受容的な養育態度」が子どもをよりよい方向へと導くと信じ、今後もつながり支援と共に学校の様子や取り組みをお伝えしていきます。